

ACE Eco System ACEエコシステム -児童労働のない未来へ-

児童労働を生み出さない社会システムの実現を目指して

働かなければならないために学校に行けず、けがや病気の危険にさらされている子どもは世界に1億6000万人。世界の子ども10人に1人が児童労働に従事している現状があります (ILO/UNICEF, 2021)。
ACEが目指す世界は、子どもが不当に働かされたり扱われたりすることがなく、すべての子どもが若者が心も体も健康で、自分の意志で人生や社会を築くことができる世界。そのために、子どもを守ると同時に、子どもを取り巻く世の中の仕組み自体を変革をもたらしている。それが必要だと、私たちは考えています。

しているプロジェクトの他にも、社会的・倫理的なビジネスへの転換を企業へ働きかけたり、国際会議の場で児童労働へのコミットメントを求めたり、国会議員へ子どもの権利についてのアドボカシー活動をしたり、学校の先生向けの教材を開発したりと、とても多岐にわたります。現地のプロジェクトの活動も、これまた多岐にわたります。地域やコミュニティレベルで、児童労働がなぜいけないのか、教育がなぜ大切なかを理解してもらい、住民が自らグループを作って児童労働の予防を行う手助けを行います。学校でも、子どもたちが自らの問題を話し合い、学校や自治体と連携して解決していくことをサポートしています。さらには、農業トレーニングや相互扶助組織を作って家計の基盤を支えています。もっと分かりやすい活動だと、ご支援をいただく方々にも効果や成果をお伝えできないのではないかと、思うことも多々あります。しかし、単純明快なプロジェクトが常に良いプロジェクトではありません。

詩人の谷川俊太郎さんがACEのために書いてくださった詩「そこ」は児童労働について書かれています。その中に、このような一節があります。
ちきゅうのうえにはりめぐらされた
おかねのくものすにとらえられて
ちやうちよのようにこのこはもがいている

これは、児童労働をしている子どもたちが、単純に貧しいからではなく、児童労働を生み出し、そして維持している蜘蛛の巣のように精巧に作り上げられたシステムに囚われている様子を描いています。私たちは、児童労働はそれより複雑な問題であり、それを無くすためにはそれ相応に多様なプロセスが必要なのだと思っています。

児童労働の問題と私たちの生活は、複雑なもので、つながっています。つながっている限り、私たちからその問題は変えていくことができるはず。蜘蛛の巣のように張り巡らされたシステムにより、見えなくなっている糸のつながりを、一つひとつ、そして同時に多発的にプラスのつながりに変えていく。そうすることで、児童労働を生み出さない社会システムを作り上げる。それが私たちACEの取り組みなのです。下の図では、そんなACEの取り組みをできるだけ分かりやすくいようにしてみました。ACEの活動は小さな一歩かもしれませんが、しかしそれを様々な形でご支援いただく皆様と、企業や政府、現地のパートナーやコミュニティの人々、それぞれが、このようにつながることで、児童労働という問題を自ら解決していく新しい社会システムの実現へとつながっているのです。



多様な活動には理由がある
ACEの活動を簡単に説明せよ、と言われたら「それは無理です」とお答えするかもしれません。それくらいACEの活動は多様で、時にわかりにくいご指摘をいただくこともあります。実際にACEがやっていることといえば、インドやガーナで現地パートナーと展開

スマイル・ガーナ プロジェクト
地域・コミュニティ
村での集会などを通して、子どもの危険労働の予防方法や教育の重要性、子どもの権利について住民が理解するよう呼びかけています。また、村でボランティアグループを立ち上げて、定期的に見回り活動を行い、児童労働をしている子どもを見つけたら家庭訪問をし、親と話し合います。貧困家庭の子どもを対象に、制服や文具等一式を無償で提供しています。

学校
子ども権利クラブを学校内に設置し、子ども自身が学校や家庭で直面する問題や解決策について話し合っています。その内容や提案は、校長先生を通して、村のリーダーに伝達され、村全体で子どもの問題に取り組むようになっています。学校運営委員会やPTA、自治体と連携して、学校改善に取り組むほか、給食支援や、教育の質の改善のための教員トレーニングも行っています。

家庭
カカオ農家が収入を上げ、子どもの教育に継続して投資ができるよう、農園経営の方法やカカオの栽培技術、カカオ以外の収入手段等を身につけるための研修を行っています。また、相互扶助組織を作り、急な出費が必要になった場合に融資を受けられる仕組みを作っています。

国の仕組みづくり
児童労働フリーゾーン(児童労働のない地域、以下「CLFZ」)認定制度
2020年3月、ガーナ政府の児童労働根絶国家計画の一部として進められてきたCLFZ認定制度のガイドラインが完成しました。
CLFZとは、「児童労働を予防・是正するための仕組みが機能している地域」で、これを自治体単位で国が認定し、広めていこうというのがこの制度です。実は、国としてCLFZの細かい運用ルールを決めて、制度化したのは世界初！制度の実現に向け、ACEはソロイト・マトツ コンサルティングの協力のもと、ガーナ政府やILO、ガーナの労働組合、現地パートナー CRADAと約1年半協働してきました。

今後ガーナで児童労働に関わる取り組みを行う際には、全員このガイドラインを参照することが求められることになります。ひきつづき、このガイドラインが効果的に活用されるよう、取り組みを進めていきます。ガーナが「児童労働のない国」になる日を目指して、ここからが本当のスタートです。

児童労働のないカカオ

児童労働のないコバルト

児童労働のないコットン

児童労働のないチョコレート

児童労働のないバッテリー

児童労働のない洋服

集まった活動資金
チョコ募金
コットン募金
チャイルドフレンドリー募金
ACE募金(子どもの権利サポーター)
会費
助成金 など

ピース・インド プロジェクト

地域・コミュニティ
村で集会や研修、文化プログラムなどを行い、児童労働や教育に関する親や住民の意識を高めます。住民ボランティアグループを結成し、児童労働がないか確認の見回りしたり、就学状況をモニタリングしています。児童労働をしている子どもがいいたら家庭訪問をして、家庭が抱える課題を聞き取り、子どもが学校へ通えるようになるために必要な対策を、親と一緒に考えます。

学校
児童労働をやめた子どもが基礎学力を身につけ、村の公立学校への進学をする学び舎として「ブリッジスクール」を運営しています。経済的に困難する家庭でも子どもをブリッジスクールに通わせるよう、制服、学用品、給食などの支給を行っています。また、学校の教員や村のリーダー、親や子どもたちが参加する会議を定期的に関き、教育や子どもに関する課題を話し合い、行政機関と連携して、学校や教育の質の改善に取り組んでいます。

女性、家庭
女性への差別や児童労働などの問題を話し合う女子のグループを作り、改善に取り組んだり、基礎教育と縫製・刺繍、紙工作製の職業訓練を行っています。特に、教育機会を失った思春期の女子が、読み書き計算スキルや収入につながる技術を身につけ、自立して生活できるよう支援しています。また、母親の自助グループを活性化させて貯蓄をするための訓練をしたり、小規模ビジネスのスタート支援を行い、家庭の収入の安定化を支援しています。

カカオ (ガーナ)

カカオ産業と児童労働

チョコレートの原料カカオは赤道近郊の高温多湿な地域で栽培されます。世界のカカオ生産の約7割を占めるのが西アフリカ地域で、世界第1位と第2位の生産量を誇るコートジボワールで79万人、ガーナで77万人、合わせて156万人の子どもが児童労働に従事しています (2020年、シカゴ大学NORC)。カカオの農地拡大による森林伐採や単一作物の栽培による生態系への影響など、環境の破壊や地球温暖化に関わる問題も起っています。



ガーナのパートナー団体
CRADA
(CHILD RESEARCH FOR ACTION AND DEVELOPMENT AGENCY)
パートナー開始2009年～
2000年からガーナの医師のグループによって設立された現NGO。子どもの権利の保護を目的に調査研究やコミュニティでの開発事業を行っています。ACEとは、2009年から「2マイル・ガーナプロジェクト」を実施しています。

スタッフ

- ナナンクウェ、ボナンコ・コレンボン 事務局長
- イサカ・ヤクブ、フィールドオフィサー、カカオセクタール級、学校/コミュニティ教育計画担当
- シャロン・アマンクワ、プロジェクトコーディネーター兼、学校/コミュニティ教育計画担当
- キデオン・ネボング・オウ、IT、プロモーション、メディア担当
- クワメ・アクル、フィールドオフィサー
- アシア・ア・アハビ、会計
- リチャード・ジェンフィン、ドライバー兼訓練担当

コバルト

コバルトの児童労働

バッテリーなどの電子機器の材料であるコバルトは、カッターベルトと呼ばれる地域で主に産出されています (2019年、JOGMEC)。世界のコバルト供給量の半数以上を産出するコンゴ民主共和国は、機械を使った露天掘り80%、残りの20%は職人によって手掘りで採掘され、地下深くのトンネルからコバルト鉱石を採掘しています。子どもたちは手掘り採掘場や鉱石の収集や洗浄に携わることが多く、コバルトへの継続的な接触により皮膚炎・呼吸器過敏症・喘息などを発症する可能性があります。同国南部ではわずか7歳の子どもをも含む約4万人の子供たちが採掘現場で働いており、その多くが危険なコバルト採掘に携わっています。

コットン (インド)

コットン産業と児童労働

インドは世界で有数のコットン生産国で、世界最大の耕地面積と生産量を誇ります。インドのコットン産地では、48万人の子どもが働き、その7～8割が女の子であると言われています (2015年、オランダ・インド委員)。インドで作られたコットンは、糸、生地、衣料製品など様々な形で主に中国を経由して日本に輸入されています。コットンはまさに「見えない糸」で私たちの生活とつながっているのです。

インドのパートナー団体
SPEED
(Society for People's Economic & Educational Development)

パートナー開始2010年～
インドの農村地域の住民の社会的経済的發展や人権保護を目的として1997年に設立された現地NGO。ACEとは、インドのコットン生産地域で実施する「ピース・インド プロジェクト」を、2010年から行っています。

スタッフ

- G.S. ラヴィ・ブハカシュ、マネージャー
- R.V. クリシュナドゥ、プロジェクトコーディネーター
- J. ビジェイワール、プロジェクトコーディネーター
- B. マハル、副、アドボカシー担当
- メーラン、コミュニケーションコーディネーター
- M. シェーカル・ナイーク、コミュニケーションコーディネーター
- マン・ガラク、コミュニケーションコーディネーター
- ラジニ・シェーカル、コーディネーター
- ナレシヤ、監査員、インド・クラクター
- サハラ、職業訓練インストラクター
- ヴィマラ、プリジショナル教員
- ナヴィーン、プリジショナル教員
- ジュニア・ジョ、プリジショナル教員
- シャム・カランマ、プリジショナルスタッフ
- シャム・カランマ、プリジショナルスタッフ

日本

私たちの身の回りにはチョコレートやTシャツ、毎日使う携帯電話など、その原料材をたどっていくと、子どもたちがカカオ豆や綿花を収穫し、レアメタルの原料を採掘している現場にたどり着きます。児童労働の7割は農業分野。経済のグローバル化に伴い、私たちは望まぬままに知らず児童労働に関係しているのです。

日本にもある児童労働
児童労働は開発途上国だけの問題ではなく、高所得国にも約160万人の児童労働者が存在することが明らかになっています (ILO, 2021年)。日本にも、危険有害労働、児童ポルノ、児童買春など最悪の形態の児童労働に当たる児童労働がありますが、それが「児童労働」であると認識されていなかったり、実態が明らかになっていません。そんな現状に取組むため、ACEの新しいゆるキャラ「キョクくん」が誕生！子どもたちの声を聴く係として、そして児童労働や働く人を守るルールを伝えるため、Twitterなどで情報を発信しています。ハンドブック「知ってる？働く人を守るルール」を説明するオンラインセミナーも開催しています。



ACE (Action against Child Exploitation)

子どもや若者の権利を奪う社会課題を解決し、子どもや若者が自らの意志で人生や社会を築くことができる世界を目指す、日本生まれの国際協力NGO。世界103カ国で行われた「児童労働に反対するグローバルマーチ」をきっかけに、1997年に設立。インドのコットン生産地、ガーナのカカオ生産地、子どもの教育や貧困家庭の自立支援を行うほか、企業との協働、政府へのアドボカシー、国際社会との連携、市民の啓発と参加機会の提供などを通して、国や立場を越えたマルチステークホルダーによる連携を促進し、児童労働を生み出さない仕組みづくりに取り組んでいます。

スタッフ

- 岩崎 由香、代表
- 白木 優子、副代表
- 小林 悠、事務局長
- 成宮 由希子、事務局長
- 田嶋 優子、子ども・若者支援
- 浅野 光、子ども・若者支援
- 浅尾 友美、子ども・若者支援
- 高橋 悠、子ども・若者支援
- 山下 みほ、広報・ファンドレイズ
- 藤原 夕紀、組織部門
- 香川 志保、組織部門
- 高橋 悠、組織部門
- 八木 希子、ソーシャルビジネス推進
- 川村 祐子、ソーシャルビジネス推進
- 佐藤 真希子、ソーシャルビジネス推進
- 櫻井 康博、ソーシャルビジネス推進
- 大田 まさこ、アドボカシー
- 青井 和乃、啓発・市民参加
- 杉山 穂香、啓発・市民参加

スタッフは2022年7月現在のメンバーになります。

私たちも応援しています！

ACEとスマイル・ガーナプロジェクトに感謝しています。私は児童労働から解放されて、ありがとうございます。私は今大学で勉強し、自由な人生を送ることができています。それもご支援のおかげです。

石橋 真士さん
子どもの権利サポーター

この活動が続くことで、さらに良い状況がもたらされ、より多くの人たちが児童労働から解放されることを願っています。心からの感謝を送ります。本当にありがとうございます。

ゴッドフレッドさん
元児童労働者

私たちは、ACEのワークショップに参加しました。アシスタントにも挑戦し、大変貴重な経験をさせて頂きました。今後も児童労働への支援を行っていきます。

順天高等学校2年生

